

みはらじまん

大和町ののどかな環境でスクスクと育つ
錦鯉は実は職人が作り上げる芸術品！
世界一の「Nishikigoi」なのです。

大和町で100年も前から養鯉を
続け、日本独自の文化であった
「錦鯉」を「Nishikigoi」とし
て海外で認知されるまで牽引
してきた阪井養魚場。その
規模、生産量は日本一を誇
ります。ここで生産された
錦鯉は、広く海外へも輸出
されています。年間に生まれる
1,600万匹の稚魚から選別され、
飼育されるのは6万匹。そして
3,000匹をエリートとして選び
抜き、そしてまた選び・・・と繰
り返され、品評会に残るのはほん
のわずかとなります。経験を重ねた職人と、大和の
自然が育て上げる「生きた芸術品」です。

世界一美しい
大錦鯉



ちょこっと
三原情報！



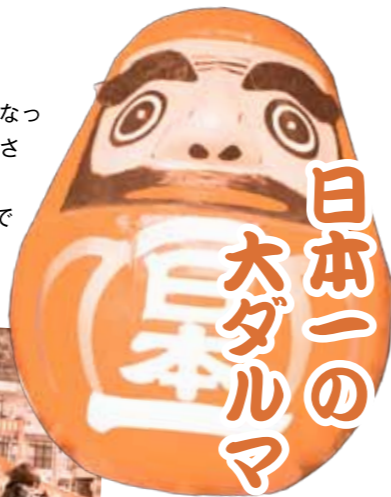
広島と言えばお好み焼きが有名ですが、
三原では麺入りのお好み焼きのことを
「モダン焼き」と言うんです。

おなかを書いてある「日本一」は伊達じゃない！
1年のうち3日間だけお目見えする大ダルマ。

毎年2月の第2日曜日を含む金、土、日曜日の3日間、
JR三原駅の北側一帯で開催される三原神明市は伊勢
神宮を祀った神明祭を由来とします。備後地域の春祭
りのさきがけとして、かつては三原城を築いた戦国武
将の小早川隆景が、人出の様子を見てその年の豊凶を
考量したとも言われる歴史ある祭りです。

歩行者天国となる通り沿いには、名物のダルマ市や
植木市をはじめ約500軒の露店が並び多くの人出で
にぎわいます。そして三原神明市のシンボルが「日本
一」の大きさを誇る大ダルマ。通りを行き交う人々を
じっと見守ります。

「日本一ダルマ」
神明市のシンボルになっ
ているダルマは、高さ
3.9m 廻り（直径）
2.9m 重さ500kgで
設置高さは4.5mと
なっています。



ミハラビト その3

「三原の素晴らしさを
こどもたちが教えてくれました」

「どこでも三原は遊び場な
んよ」と立派な三原弁で
教えてくれました。

井沢さん一家は夫婦とお子さん2人の4人家族。ご主人の転勤で埼玉、岡山、
三原と引っ越し、市街地のマンションに住み始めて6年だ。三原の第一印象
として良かったのが美しい海。埼玉では海は憧れの対象。行くとなれば
一大イベントで泊まりも当然。だが今では目の前だ。海も山も近い環境は
まるでリゾート地のようで、子育てにも最高と、「子どもたちのいきいきと
した笑顔が三原の価値を伝えてくれた」と夫婦で口をそろえる。また、
奥様のお気に入りには、街がコンパクトで役所、買い物、図書館、病院など
が近場に揃っていること。さらに周囲のみんながとても親切で、子育ての
サポートをはじめ、ママ友も出来るなど、温かい人のつながりに助けられ
ていることだそう。そんな井沢さん一家の夏のお気に入りには、車で20分
で行ける海水浴場とそこにあるプール。まさにリゾート気分が味わえ
しかも無料なんて、教えたいけど教えたくなくらい最高！なんだとか。



住まいの目の前に瀬戸内海が広がっています。



お家の中でもみんな仲良いなあ～



を育む



仲良しみはら家族
井沢秀樹さん
ご家族